
SENKOU花火

柚遊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

SENKOU花火

【コード】

N5902C

【作者名】

袖遊

【あらすじ】

「馬鹿。いつものようにキミの声が聞こえてくる。」

「馬鹿。」

愛するキミの言葉。

「うつせーよ。お前のが馬鹿だろ。」

俺の言葉。

いつものようなこの口喧嘩も卒業したらできなくなっちゃうのかな、

「ねえ。卒業したら何処行くの??」

彼女は聞く。

「北海道。」

無表情で答える俺。

彼女に片思いのくせになんて無愛想なんだ。自分でも思う。本当素直ぢゃねえよ。

「そっか。うちは神奈川行くんだよ。」

「やった。お前と離れられてせえせえするわ。」

「……………こっちこそ。」

冗談で言ったその言葉でまた彼女を傷付けた。

あゝやっちゃったよ。

馬鹿だ。俺なに言ってんだよ。

「ねえ……………」

「なんだよ。」

「卒業する前に言いたい事あるんだけど。」

ある日、

彼女が不意に言った。

「・・・なに？」

「いー加減ケンカやめよ？」

急に言われてビビる俺。

「は？」

「だって毎日ケンカばっかちゃん。」

「あゝ・・・うん。わかった。」

彼女は急に笑い出す。

「ははっ　なんかおかしいね。」

「笑うな。／＼／」

素直に答えた自分が恥ずかしい。

「あっ！！あとね。１つ言いたい事あったんだ。」

「？」

「ずっと前から好きだったんだよ。」

「えええええ。」

俺が思う程彼女は俺を嫌っていなかったようだ。

愛しいキミの声が聞こえてくる。

「馬鹿……でも大好きだよ。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5902c/>

SENKOU花火

2010年10月20日12時16分発行